

福島県相馬市・南相馬市の今とこれからを伝えるコミュニティペーパー

「そうまかえる新聞」

2014年 9月 第16号

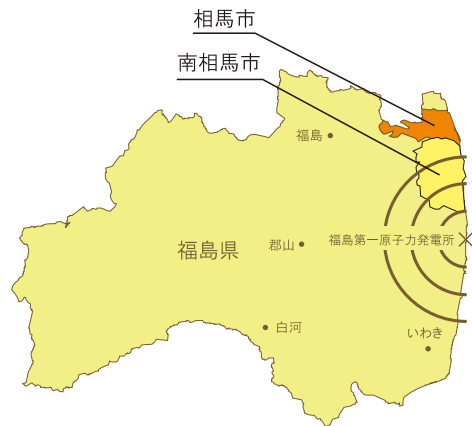
発行所: そうまかえる新聞編集部

〒976-0042 福島県相馬市中村1丁目13-3 モリタミュージック内  
問い合わせ・配達希望: somakaeru@yahoo.co.jp

子どもたちに明るい未来を手渡すため、  
わたしたちは生き方を「変える」。  
いのちを何よりも大切に「考える」。  
まちをゲンキに「変える」。



<http://soma-kaeru.com/>



★そうまなぞなぞ 方言編 その9  
「でんぐる」ってなーんだ?  
(例)「急に走るとでんぐるぞ!」

# 受け継いだ 困難に勝つ力

## 相馬野馬追 見えた地域の未来

### 1000年続く祭り

相馬野馬追は1000年以上の歴史があります。相馬中村藩主の相馬氏の祖先が、藩内の軍事力を高めるため、放牧した馬を敵軍に見立て、野馬を捕えて神前に奉納したのが始まりといわれています。

その後、長い歴史の中で少しずつ形を変えながら相馬地方で行われてきました。

東日本大震災が発生した2011年も、「相馬野馬追の歴史を途絶えさせてはならない」と多くの住民が避難生活を送る中、規模を縮小して開催されました。2012年からは、震災前とほぼ同規模で開催されています。メイン会場の雲雀ヶ原祭場地を有する南相馬市原町区には、今年は約59,000人の観光客が詰めかけました。

### 避難先からも出陣

初日の7月26日は、相馬中村神社(相馬市)、相馬太田神社(南相馬市原町区)、相馬小高神社(南相馬市小高区)で、それぞれで出陣式が行われました。



▲相馬野馬追の各郷の幹部が話し合う最高意思決定機関の「軍者会」

小高区)と標葉郷(現在の大熊町、浪江町、双葉町)の騎馬武者たちが出陣します。現在、全員が原発事故により避難生活を送っています。それでも、この日は相馬野馬追に出陣するために集合しました。騎馬武者たちは、どの表情も凛としていました。

各神社で出陣式を終えた騎馬武者は、雲雀ヶ原祭場地(南相馬市原町区)へ向かいます。宵乗競馬に出陣するためです。宵乗競馬では、白鉢巻に陣羽姿の騎馬武者が1周1<sup>3</sup>/<sub>4</sub>kmの馬場を疾走します。この日は、とても暑かったので、次の日の本祭りに備えるためか、当初予定の騎馬数は走りませんでした。

宵乗競馬が終了すると、旭公園(南相馬市原町区)に各郷の幹部が集まり、軍者会が行われます。軍者会は、相馬野馬追における最高意思決定機関。この日の軍者会では、次の日の雲雀ヶ原祭場地への進軍(お行列)と戦(甲冑競馬と神旗争奪戦)に関する最終確認や訓示が伝えられました。軍者たちは、例年ここで翌日戦場へ向かう覚悟を決めます。戦場に行くということは、すなわち命を懸けるということ。軍者会終了時には、旭公園に相馬中村藩の国歌、「相馬流れ山」が鳴り響きました。

### 騎馬武者 436騎

2日目の7月27日は、旭公園に安置された三神社の御神輿に対し、午前4時に礼螺(れいがい=ほら貝の吹奏)が奉納され、本祭りがスタートします。

9時30分になると、436騎の騎馬武者が南相馬市原町区の野馬追通り約3<sup>3</sup>/<sub>4</sub>kmの道のりを雲雀ヶ原祭場地目指して進軍する「お行列」の開始です。

相馬野馬追は、血気盛んな若武者だけの祭りではありません。今年、出場した騎馬武者の最少年齢は2歳で、

今年の相馬野馬追(そうまのまおい)は、7月26日から28日に開催されました。この祭りは旧相馬中村藩領(現在の相馬市、南相馬市、新地町、飯舘村、大熊町、浪江町、双葉町)挙げて開催される国の重要無形民俗文化財で、観光という側面から捉えられがちですが、古くから伝わる神事です。今年は436騎の騎馬武者が出陣し、炎天の中、先祖伝来の旗指し物を背に壮観な戦国絵巻を繰り広げました。東京電力福島第一原発事故による避難指示区域を含む地域で開催されるこの祭りを通して、相馬地方の未来を考えます。(タカノシンジ/南相馬市)



▲騎馬武者たちが戦へ向かう「お行列」

最高年齢が86歳。そのほか、14人の女性騎馬も出場しています。彼らが威風堂々と進軍していく姿に、道道から大きな拍手が送られました。

正午になると、甲冑競馬が開始されます。甲冑を身につけ、旗指し物を背に、10頭立てのレースが行われます。旗が風にたぐりく身体に響く低い音、その迫力はおそらく現場に来ないと感じる事ができないでしょう。今年は馬場の状態が乾いていたため、騎馬が走るたびに、走路に大きく砂塵が舞いました。

その後は、祭りのクライマックス、神旗争奪戦です。花火で2本の御神旗が空高く打ち上げられます。そしてひらひらと落ちてくる御神旗目掛け、数百騎の騎馬武者たちが一斉に駆け出します。旗は奪い合うようにしてムチでからめ取られます。御神旗を獲得した騎馬武者には、その栄誉を称えて、褒美が与えられます。次々と計20発の花火が打ち上げられましたが、今年は風が強く、場外へと御神旗が流れ、無効となってしまった旗もありました。花火を打ち上げる花火軍者も、風を読むことがきつと大変だったでしょう。



▲祭りのハイライトの「甲冑競馬」

### 小高区に観光客

最終日の7月28日は、相馬小高神社で野馬懸が行われます。神社の境内に追い込まれた裸馬を、白装束の御小人たちが、素手で捕えます。1番初めに捕えられた馬は、神前に奉納され、残りの馬はせりにかけられます。この野馬懸が、相馬野馬追本来の姿です。普段人が住んでいない南相馬市小高区に、この日は多くの観光客が詰めかけました。

この行事をもって、3日間続く相馬の暑い夏が終わります。そして騎馬武者たちは、すぐに来年の出場のための準備に取り掛かります。来年の相馬野馬追は、7月25日(土)から27日(月)に開催されます。



▲素手で裸馬を捕まえる「野馬懸」は相馬野馬追の原点

### 地域に根付く祭り

相馬地方では、相馬野馬追を中心に1年が回ります。各家庭では、祭りの前までに家をきれいにし、庭や田畑の草刈りを終えます。当日になれば、子どもは小遣いをもらい、夕方には家族揃ってごちそうを食べます。近所や親せきに出陣騎馬がいれば、お祝いに行き、出陣の朝は健闘を祈りながら、みんなで見送りをします。

相馬野馬追は神事ということもあり、2010年まで、7月23日から25日の日程で行われる行事でした。そのため、自分の生まれ育った南相馬原町区では、本祭りの7月24日は、曜日に関係なく会社も病院も市役所も「野馬追休み」と称した休日になっていました。2011年から、現在の「7月最終週の土曜日から月曜日開催」と変更になっています。

日本全国で伝統芸能の担い手がない、との話をよく耳にしますが、相馬野馬追が後継者不足で困っているという話は聞いたことがありません。この祭りに出場したいと思う地元の若者が多いのです。それは東日本大震災後でも変わりません。これから数千年先も、相馬野馬追はこの地でずっと脈々と続いていくのです。

### 相馬武士の自信と誇り

相馬馬追のルーツは軍事訓練。それでは、なぜ軍事訓練をする必要があったのでしょうか。藩主からすれば、それは「藩を守るため」。しかし、民衆からすれば、「古里を守るため、家族を守るため」にほかなりません。「ずっとこの地で家族一緒に安全に暮らしていきたい」、そういう意思を受け継ぎ、相馬の武士たちはこんな大掛かりな訓練を1000年以上も続けてきたのです。

原発事故が発生し、避難区域に指定された小高郷(現在の南相馬市小高区)と標葉郷(現在の大熊町、浪江町、双葉町)の住民は、そのように先祖たちが懸命に守ってきた古里に今は住むことができず、避難生活を送っています。軍事訓練を続けてきた相馬武士たちは、現代の生活の中では放射能と戦っています。残念ながら、この戦には勝ち目がありません。

しかし、まだ震災の爪跡が大きく残る2012年、自分が相馬野馬追を見たとき、そこに相馬地方の未来が見えた気がしました。理由がはっきりとはわかりませんでした。今年、相馬野馬追に接しながら、ずっとそのことを考えていました。

甲冑競馬で1着を獲った騎馬武者たち、そして神旗争奪戦で御神旗を獲った騎馬武者たち、今年、彼らの表情を改めて見てわかりました。彼らは、自信と誇りに満ち溢れているのです。そして出場する騎馬武者たちの目は、迷いやかげりがありません。それはまるで、この地に生まれたことを謳歌しているようにも見えます。

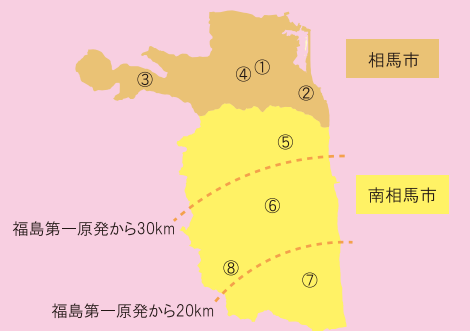
原発事故で、それぞれの古里は元のように戻らないかもしれませんが、でも、旧相馬中村藩の住民は、英知を結集して、近い将来、別な形できっと再生します。彼らの表情を見てそう確信しました。だって、この地の住民は、先祖代々から受け継いだ血の中に、誇り高く、戦や困難に打ち勝つ能力がもう備わっているのですから。



▲落下する旗をムチでからめとる「神旗争奪戦」

### 相馬市・南相馬市放射線レベル測定値

(2014年8月31日 単位=マイクロシーベルト/毎時)



①相馬市総合福祉センター(はまなす館)	0.248 (△0.004)
②磯部小学校	0.089 ( 0.016)
③玉野小学校	0.257 (△0.020)
④馬陵公園長友グラウンド	0.152 (△0.022)
⑤鹿島区役所	0.207 ( 0.004)
⑥南相馬市役所(原町区)	0.197 (△0.002)
⑦小高区役所(避難指示解除準備区域)	0.099 (△0.004)
⑧鉄山ダム(居住制限区域)	2.636 ( 0.102)
東京(新宿区 東京都健康安全研究センター)	0.034 ( 0.001)

カッコ内の数値は前号の数値からの増減です。各地のモニタリングポストでの放射線レベル測定値は、原子力規制委員会のホームページで公開されています。



# そうま・かえる新聞が ライブイベント

リクオさんと中川さんは、2011年7月、プレスコキクチ 東原町店のインストアライブで震災後初めて、南相馬市を訪れました。中川さんは1995年の阪神・淡路大震災後、被災地への出前ライブを行ったことで知られています。ソウル・フラワー・モノノケ・サミットとして、電気が使えない場所を、チンドンスタイルの楽器編成で回りました。HEATWAVEの山口洋さんと共作の「満月の夕」はこの時にできたものです。

ソウル・フラワー・ユニオンは、東日本大震災後、阪神・淡路大震災の時に立ち上げた基金をもとに「ソウル・フラワー震災基金2011」を立ち上げ、岩手、宮城、福島の前県で被災地支援を実施してきました。南相馬市にも

この基金から沢山のラジオを送ったり、南相馬ひばりFMへCDを送ったりしています。

リクオさんは震災以前から、相馬、南相馬でライブを行ってきました。震災に関連する楽曲を制作したり、相馬市出身のシンガーソングライターの堀下さゆりさんとライブを開いたりしています。2人はプレスコキクチでのライブ以降も、ツアーの合間をぬって南相馬市を訪れ、小高区を回ったり、えんどう豆にツアーグッズ製作を依頼したりするなど、きめ細かい支援を続けています。

今回は2人の音楽や活動を地域の多くの人に伝えたいと、かえる新聞としてライブを開きます。会場は1923年(大正12年)に建設され、映画館として長く市民に愛

そうま・かえる新聞は、創刊から今まで、「新聞を通して東日本大震災で被災した相馬市や南相馬市の状況を伝えること」、「全国の皆さんの思いを現地に伝えること」を目的に活動してきました。今後、さらに多くの方に相馬や南相馬、福島の現状を知ってもらうために、新聞発行と併せて、不定期ではありますがイベントを開いていくことになりました。その第1弾として、ミュージシャンのリクオさんとソウル・フラワー・ユニオンの中川敬さんの全国ツアー「うたのありか2014」の南相馬公演を10月12日、南相馬市原町区の朝日座で開催します。ライブに合わせて、障がい者の自立研修所えんどう豆や原発事故の旧警戒区域で、現在も住むことができない小高区などの南相馬の被災地を巡るツアーも実施します。(柚原良洋/南相馬市)

されてきた約90年の歴史を誇る「朝日座」です。ライブ前には、小高区を見学する被災地ツアーも行い、より深く、南相馬市の現状を知っていただきたいと考えています。

第2弾の催しは、相馬市出身でかえる新聞のスタッフでもあるシンガーソングライター堀下さゆりさんのライブです。東京、仙台、相馬を巡る出産後、初のツアーの最終公演を、11月23日に相馬市のプレスコキクチ本店の菊池蔵で開きます。午後2時からのライブで、小学生以下は無料。親子で楽しめる企画です。堀下さゆりの地元ならではの、趣向を凝らしたライブにしよう準備を進めています。

第3弾は11月30日に南相馬市のフィフティーズ・スポット・シャウトで開く、関西のロックバンド、モンスターロシモフのライブです。モンスターロシモフは、ライブでのグッズ販売などで集めた寄付金を自立研修所えんどう豆やかえる新聞に届けてくださっています。

メンバーは、震災後、現地に行き、自分の目で見て、自分の耳で聞き、肌で感じて、それを自分の口で伝えたいという思いで東北に来てくれています。普段のライブでもかえる新聞を配布していただいていることもあり、ライブをお手伝いしてかえる新聞としても恩返ししたいと考えています。

## LIVE SCHEDULE



### リクオ×中川敬

うたのありか2014 LIVE IN 朝日座

日時 2014年10月12日(日)  
16:30open/17:30start

会場 南相馬市・朝日座

料金 【一般】前売3,800円/当日4,300円  
【高校生】前売2,000円/当日2,500円

※ドリンク別/中学生以下無料(保護者同伴)。  
※中学生、高校生は要学生証、付き添いが必要な障がい者の方に限り、介護者1名は入場無料。  
障がい者手帳を必ずご持参下さい。



### 堀下さゆり

アフターヌーンワンマンライブツアー2014 ...step for tomorrow...

【ゲスト:田中景子(viola)】

日時 2014年11月23日(日)  
13:30open/14:00start

会場 相馬市・菊池蔵

料金 前売3,000円/当日3,500円

※小学生以下無料



### モンスターロシモフ

日時 2014年11月30日(日)

会場 南相馬市・フィフティーズ・スポット・シャウト

※時間・料金未定

■行程:原ノ町駅発(11:00)→朝日座発(11:10)→えんどう豆(11:20)→昼食タイム(12:30 道の駅で各自)→小高区見学(13:30)→朝日座着(16:00)  
●募集人数:25名(先着順)  
●無料(昼食代は各自でご用意ください)  
●申し込みはsomakaeru@yahoo.co.jp(そうま・かえる新聞編集部)へ。

現在、「そうま・かえる新聞」や福島県相馬市・南相馬市応援プロジェクト「MY LIFE IS MY MESSAGE」には、全国に支えてくれる仲間が広がっています。このコーナーでは、そういった全国からの声を紹介していきます。

## 「島根から応援」

ミュージシャン 浜田真理子  
(島根県松江市在住)

そうま・かえる新聞の読者のみなさま、初めまして。島根県松江市に暮らしながら音楽活動をしている浜田真理子と申します。

わたしは、ピアノを弾いて歌を歌うのを仕事にしています。東北へも何度か出かけています。そうま・かえる新聞編集部の森田文彦さんは、CDショップを経営なさっているので、会場でのCD販売などをきっかけに知り合いました。同年代だということもあり、意気投合しました。

2011年3月11日、自宅でちょうど、翌週にせまった福島でのコンサートのための荷造りをしていました。17日福島市、19日会津若松市、21日新潟市、23日札幌市というツアーの予定でした。プロモーターは仙台の方でしたので、3日ほど連絡がとれず、そうしている間に福島第一原発での事故も発生、結局ライブは中止になりました。森田さんをはじめ東北には知人が多く、遠い島根に暮らしていても気持ちの上では身近に感じている場所です。3.11以降ずっと何かできることがないかと考えていました。

その時、初めて気づきました。わたしの暮らす松江市には島根原発があります。県庁所在地に原発が存在するのは日本ではここだけです。県庁や市役所から約10kmの地点に位置しています。わたしの自宅からは15kmほどです。危機感を抱くと同時に、一体福島で何が起きているのかを、知らなくてはならないと痛切に思いました。

その後、所属する地元の町づくりのNPO法人「松江サードプレイス研究会」の仲間に、福島のことを学び、これからの松江のまちづくりを考えてみませんかと呼びかけてみました。事故は他人事ではありません。福島に頻繁に通って、直接的な支援をすることはできないけれど、遠い島根の地から福島に思いをはせているのだ



▲そうま・かえる新聞メンバーが参加した7月のスクールMARIKOの浜田真理子さん(左)

という意味表示をし、ともに未来を考えて行こうよと言うと賛同してくれる仲間がありました。支援は同情だけでは長続きしません。誰もが自分のこととして考えることができなければと思います。

仲間とミーティングを重ね、13年春からスクールMARIKOという勉強会を始めました。

松江は原発立地自治体です。つまり、雇用の多くもそちらに頼っています。いきなり反原発を掲げれば小さなまちが二つに割れてしまいます。できれば、中立という立場をとって、反対する人も賛成する人も一緒に話をすることができないかと思いました。そこで一人一人が学んで、自分で結論を選択することにできればよいと思ったのです。

勉強会は、イベントも合わせて昨年は月に1度、年7回開催をしました。主に音楽家を中心として立ち上がった福島市の「プロジェクトFUKUSHIMA!」に関わる方々の中から毎回ゲストをお呼びしてお話を聞きました。のんびりと暮らしていた松江の人たちからは、驚きの声が上がりました。事故後の福島の様子は知らないことばかりでした。

スクールMARIKOは今年も5回開催しました。昨年お出掛けいただいた市民のみなさんから、福島で暮らす人の生の声が聞きたいという声があり福島から全国へ情報発信しているそうま・かえる新聞編集部の森田さんと、南相馬ファクトリーの佐藤定広さんを第4回のゲストにお迎えしました。

地震、津波、原発事故を経験されたお二人の言葉には重みがあり、会場はしんとしました。森田さんは、ご自身の住宅事情や、まちや、子供たちの様子のお話をされました。相馬出身のシンガーソングライター、堀下さゆりさんが相馬の子供たちと歌った「胸をはって歩こう」のCDをかけられた時には、子供たちの明るい歌声に不意打ちをくらって、涙する方々も多くありました。

佐藤さんには障がい者福祉に携わる立場からお話をいただきました。実は佐藤さんとは初対面だったのですが、あの時中止になったわたしの福島コンサートに行く予定だったと、チケットを大切に

持っていてくださいました。やっとお会いできて感激でした。静かな語り口ではありましたが、大きな悲しみややるせなさが伝わってきました。障がいを持つ方々が大変ご苦勞をされたことなど、貴重な体験談をお聞きすることができました。

南相馬ファクトリーから購入した缶バッジのひまわりの種が松江でも大きく育っています。種を取ってまたお送りしたいと思っています。

最後になりましたが、そうまのみなさまにエールを送りたいと思います。遠くから心を寄せています。どうぞお元気で。また全国の原発立地自治体のみなさんと意見や情報を交換することができればと思います。これからもそうま・かえる新聞を応援しています。

### 浜田真理子 ●はまだまりこ

1964年島根県生まれ、松江市在住。'98年暮れ1stアルバム『mariko』をリリース。東京の大型CDショップの試聴器でロング・ヒットする。'02年、レーベル美音堂が設立され10月に2ndアルバム『あなたへ』をリリース。ライブ活動を年間数本のペースで始める。'03年12月、廣木隆一監督、寺島しのぶ主演映画『ヴァイブレーション』にて『あなたへ』が挿入歌となり話題になる。'04年7月、MBS・TBS系ドキュメンタリー番組『情熱大陸』に出演し反響を呼ぶ。地元島根を舞台にした錦織良成監督映画『うん、何?』('08年5月公開)にて音楽を担当する。'08年11月、世田谷パブリックシアターにて、演出家久世光彦のエッセイ『マイ・ラスト・ソング』を題材にした音楽舞台で女優小泉今日子(朗読)と共演し好評を博す。'09年3月、NHKドラマスペシャル『白洲次郎』にて『しゃれこうべと大砲』が挿入歌に起用される。'09年、4作目となる『うたかた』をリリース。'11年、資生堂アースケアプロジェクトCMに『LOVE YOU LONG』を書き下ろす。'12年8月、プロジェクトFUKUSHIMA!のイベントを松江、郡山で開催。'13年4月より福島や原発についての勉強会スクールMARIKOを松江で開催。'13年、5作目となるアルバム『But Beautiful』をリリース。'14年、9年ぶりのライブ盤『Live.La solitude』をリリース。

### 編集部からみなさんのサポートに感謝を

全国のみなさんから、たくさんのお愛のあるサポートをいただけて「そうま・かえる新聞」は発行されています。7/1~8/31までのサポートご支援(右記口座への寄付ご入金)は、156,309円です。ご支援、本当にありがとうございます。

そうま・かえる新聞は毎月第3金曜日に発行。  
次号は2014年11月21日発行予定です。

「そうま・かえる新聞」はみなさんに寄付のお願いをしています。額の大小は問いません。全額を「そうま・かえる新聞」発行のための経費として使用させていただきます。寄付の際には可能であればメールなどでご連絡先(お名前、ご住所など)をお知らせいただけると幸いです。

●郵便局からお振り込みの場合  
口座/ゆうちょ銀行 記号/18290  
番号/30483531  
●他銀行からお振り込みの場合  
口座/ゆうちょ銀行 店名/八二八(読みハチニハチ)  
店番/828 預金種目/普通口座 口座番号/30483531  
口座名/そうまかえる新聞編集部

所在地 〒976-0042 福島県相馬市中村1丁目13-3  
モリタミュージック内  
編集 相馬市・南相馬市ほか有志  
協力 かえる新聞(いわきの子供を守るネットワーク)  
http://kaeru-web.com

★記事の転載や転用をご希望の方はそうま・かえる新聞編集部までお問い合わせください。



【そうま・かえる新聞】  
2014年9月第16号  
発行元 そうま・かえる新聞編集部  
http://soma-kaeru.com  
連絡先 そうま・かえる新聞編集部  
e-mail somakaeru@yahoo.co.jp